



# いずみ野

令和 元年 6月28日  
横浜市立いずみ野小学校

## Visitor されど sustainable に

今年度本校に副校長として赴任しました、中村好宏です。どうぞよろしくお願ひします。

我々教職員は、長くて10年、早いと1年あるいは数か月で勤務校を離れなければなりません。しかし、その学校に通う子供たちはその街に生まれ、育ち、暮らしています。本校においても違ふことなく、子供たちはこの街にいます。ましてや、ご家族、地域の方々はもっと以前からこの街に営みを形成されています。

時代とともに変化する教育課題や新しい学習指導要領への取組を構築しながら私たちは学校運営を推進していかねばなりません。保護者の皆様や地域の方々の営みを基盤にしつつも、新しいことにチャレンジしていきます。

いずみ野小学校は、非常に特色のある学校です。



人の営みに直結した、農業生産活動をメインとした教育活動を展開しています。赴任早々、その取組の熱さに驚きを覚えました。

朝活動として「学び隊」が実際の畑を使わせていただきながら、生産活動にいそしんでいます。

また、低学年の芋の生産、高学年の米の生産、本物の田畑をお借りし、直接のアドバイスをいただきながらそれぞれに取り組んでいる様子は、長年にわたる本校の教育そのものであると言っても過言ではありません。

私は、多くの学校に勤務してきました。1校1校その学校の特色を肌で感じながら、子供たちの成長を見守りつつ多くの人と出会い、多くのことを学ばせてもらいました。しかし、心に何か引かかるものがありました。それは、どんなに馴染ん

でも、どんなに関係を紡いでも、いつかはお別れをしなければならないという現実です。言うなれば、私は、その学校、その街、その営みへの訪問者でしかありえなかったということです。



街のパワーに勝るものではありません。そのパワーがプラスに働くかどうかは、パワーの源である子供たちの姿勢に依るものと考えます。子供たちの資質を育むことに大いに寄与するのは、幼少期から少年・少女期へと成長する6年間の学びの場である小学校でしょう。まさに教育の力が問われます。

学校の役割を十二分にとらえ、この街の営みの中で生きていく子供たちがさらに生きる力を身につけられるように、私は(私たちは)数年間の出会いの中であっても、持続可能な(sustainable)何かを伝えていきたいと思ひます。



運動会でお借りしたテント、その上に広がる青空、流れる空気、聞こえる歓声と拍手……。すべて人の営みの結集でした。おかげさまで、素敵な時間と空間を共有できたことに、あらためて感謝申しあげます。

ありがとうございました。

副校長 中村 好宏